

十和田産品販売戦略室からのお知らせ

☎6743

第3回十和田湖ひめます祭り



十和田湖ひめますで地域の魅力アップ！

11月10日、11日の2日間にかけて、十和田湖畔休屋で第3回十和田湖ひめます祭りが開催され、約2,000人の観光客が訪れました。

この祭りは、十和田湖の特産品である「十和田湖ひめます」のPRを目的に同実行委員会（松橋泰彰代表）が開催したものです。十和田湖増殖漁業協同組合がひめます汁を無料で振る舞ったほか、ひめますの塩焼き、燻製などが通常より安く販売されました。

また、今回は青森県が主催した講座「食と地域の魅力アップ事業」で、参加者が開発した十和田湖ひめますの創作料理がお披露目されました。講座の参加者は、休屋地区の宿泊施設や土産店、産直とわだや十和田湖商工会などで「十和田湖げんき隊」として6月から5回のワークショップを重ねて料理を考案しました。

新メニューは、ひめますが1匹入っただまっこ汁や切り身を使ったワンタン汁、おでんのみれ、コロッケのほかひめます模様を描いたチョコバナナや飯寿司の加工品など7品目。完売した商品もあるなど好評で、多くの観光客らが買い求めていました。

十和田湖げんき隊では、会場で実施したアンケートをもとに、今後の商品化や十和田湖の活性化に向けた検討を進めることとしています。



▲好評のひめます汁の無料振る舞い



▲▶ひめますを使ったさまざまな料理が並びました

とわだの文化財◆5 ～十和田市の文化財を紹介するコーナーです

問生涯学習課 ☎2313

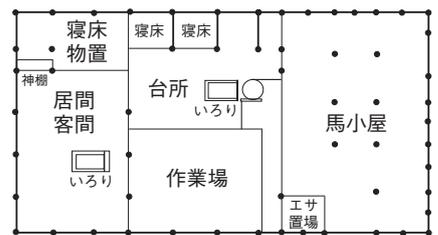
国指定重要文化財

旧笠石家住宅

江戸時代後期の典型的な農家の住宅で、建物は寄棟造り茅葺の直屋である。この住宅は、昭和48年頃まで使用されていた。



旧笠石家住宅



平面図

旧笠石家住宅は、奥入瀬川右岸の栃久保集落にあり、江戸時代後期に建てられたこの地域の農家の典型的な茅葺住宅である。

代々林業を営んできた笠石家は住宅兼事務所として使われた寄棟造りの直屋である。寄棟造りとは、建築物の屋根形式の一つで四方向に傾斜する屋根面を持つものを言う。また、直屋とは平面形がL字に曲がっている「曲り家」に対し、長方形のものを言う。

住宅の規模は、間口九間半・奥行五間半で、農家としては大きいものと言える。なかでも、東側の「まや（馬小屋）」が全体の三分の一を占めているのがこの地方の特徴である。

梁などの主要構造部は、カンナを使わずチョウナ仕上げで、土台を用いず礎石に直接柱を立てる石場建てという古い要素を各所にとどめていた独特の建築様式で保存されていたため、昭和四十八年二月に国指定重要文化財に指定された。その後、保存・公開するために修理を行い、建築当初の形式に復元され公開されている。

また、旧笠石家住宅の敷地内には十和田湖民俗資料館が併設されており、祖先から伝承されてきた生活の移り変わりを知る上で貴重な民俗資料を保管し、公開している。

【文責：市文化財保護協会】